

## 資料 1 調査票



<b>東日本大震災をめぐる方言問題の意識調査</b>
----------------------------

本調査は、東日本大震災をめぐる方言問題に関して、茨城大学が文化庁の委託を受けて茨城県について行う調査研究事業の一環として行うものです。調査の目的は、東日本大震災によってふるさとを離れ、現在、茨城県内に避難されている方々より、震災発生以降の方言に関わる状況やご意見をお教えいただき、今後に役立てることにあります。皆さまよりいただいた情報をもとに、ことば（方言）の果たす役割やことば（方言）に関する問題点について分析・考察し、ことば（方言）の面から将来に役立つ取り組みを行っていきたいと考えております。本調査の趣旨をご理解いただき、調査にご協力くださいますよう、お願い申し上げます。

なお、今回ご教示いただいた内容は、上記の趣旨に添った学術的な目的のために、個人の特定できない状態で使用させていただきますことを、ご了承ください。

事業代表責任者 茨城大学人文学部・教授 杉本妙子

調査にご協力いただく皆様について、差し支えない範囲で下記にご回答ください。

■ご回答年月日	年 月 日 ( )		
■お名前（無記名可）	様		
■年齢	80代以上 70代 60代 50代 40代 30代 20代 10代（ 中高校生 高校以上 ）		
■性別	男性 女性		
■本来の居住地	01.新地町 02.相馬市 03.南相馬市 04.浪江町 05.双葉町 06.大熊町 07.富岡町 08.檜葉町 09.広野町 10.いわき市 11.川俣町 12.飯館村 13.葛尾村 14.田村市 15.川内村 20.その他の福島県（ 市・町・村） 99.その他 [ ]		
■データ使用許可確認	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 80%;">           今回ご教示いただいた内容は、学術的な目的のために、個人の特定できない状態で使用させていただきますことを、ご了承ください。            なお、ご了承いただけない場合のみ、右に○をつけてください。         </td> <td style="width: 20%; text-align: center;">           使用不可         </td> </tr> </table>	今回ご教示いただいた内容は、学術的な目的のために、個人の特定できない状態で使用させていただきますことを、ご了承ください。 なお、ご了承いただけない場合のみ、右に○をつけてください。	使用不可
今回ご教示いただいた内容は、学術的な目的のために、個人の特定できない状態で使用させていただきますことを、ご了承ください。 なお、ご了承いただけない場合のみ、右に○をつけてください。	使用不可		

以下の質問にお答えください。「そうだ」と思うものに ○ を付けたり、具体的にお答えください。

A. 方言の使用状況について

A01. 震災前と比べて、ご家族(お子さんやお孫さん または ご両親やおじいさん・おばあさん) と方言を使ってお話しされる機会はどうになりましたか？

- 01.増えた 02.減った 03.変わらない

A02. では、ご親戚や顔見知りの同郷の方と方言を使ってお話しされる機会はどうですか？

- 01.増えた 02.減った 03.変わらない

A03. (上の A01.と A02.で「02.減った」という方にうかがいます) そうした状況についてどのように感じますか？

- 01.さびしい 02.ストレスを感じる 03.方言で話したい  
04.その他 ( )

A04. 震災前と比べて、顔見知りではない方とお話しされる機会はどうになりましたか？

01. 増えた 02.減った 03.変わらない

A05. 顔見知りではない方とお話しされるときには、どのようなことばで話されますか？

- 01.方言 02. 標準語 03.方言と標準語が交じる 04.その他 ( )

A06.現在、お住いの地域の方とお話しされる機会はどうですか？

- 01.話す機会がある 02.話す機会はない

A07. (上の A06.で「01.話す機会がある」という方にうかがいます) お住いの地域の方とお話しされるときには、どのようなことばで話されますか？

- 01.方言 02. 標準語 03.方言と標準語が交じる 04.その他 ( )

\* \* \* \* \*

B 方言の問題や効用 《カラー印刷の提示資料の例をご参照ください》

B01. 震災後、ことばや方言のことでなにか困ったり、嫌な思いをしたりといったことはありませんでしたか？「そうだ」と思うものいくつかでも○を付けてください。(複数回答可)

- 01.方言が通じなかった
- 02.方言が話せない
- 03.方言を馬鹿にされた
- 04.避難先の方言がわからない
- 05.その他 ( )

B02. 東日本大震災の被災地へ支援に来た医療関係者などのために、被災地の方言を簡単に説明したパンフレット等がいくつか作られています。被災地の支援活動を行う上で、こうした方言パンフレットは必要なものだと思いますか？ 《資料例1～3ページ》

- 01.必要だ
- 02.必要ではない
- 03.どちらともいえない

B03. 震災後、「がんばっぺ福島」「けっばれ東北」のように、被災地各地の方言を使ったかけ声(方言エールや方言スローガン)が聞かれました。こうした方言によるかけ声は皆さんの力になりましたか？「そうだ」と思うものいくつかでも○を付けてください。(複数回答可) 《資料例4ページ》

- 01.親しみがもてる
- 02.励まされた
- 03.特に何も感じない
- 04.馬鹿にされているようだ
- 05.その他 ( )

B04. 「がんばろう東北」「がんばろう茨城」のような共通語によるかけ声については、皆さんの力になりましたか？「そうだ」と思うものいくつかでも○を付けてください。(複数回答可) 《資料例4ページ》

- 01.親しみがもてる
- 02.より励まされる気がする
- 03.励まされた感じがしない
- 04.特に何も感じない
- 05.馬鹿にされているようだ
- 06.その他 ( )

B05. 「がんばってや東北」「ちばりよ一福島」のような他地域の方言エールやスローガンについてはいかがですか？「そうだ」と思うものいくつかでも○を付けてください。(複数回答可) 《資料例4ページ》

- 01.親しみがもてる
- 02.より励まされる気がする
- 03.励まされた感じがしない
- 04.特に何も感じない
- 05.馬鹿にされているようだ
- 06.意図が不明
- 07.見たことがない
- 08.その他 ( )

\* \* \* \* \*

C 文化としての方言保存・継承、方言への愛着・評価について 《提示資料の例をご参照ください》

C01 被災地や避難地区の地域文化・文化財を保護したり、お祭りを復興させたりという取り組みも盛んです。こうした取り組みについて、どう思いますか？「そうだ」と思うものいくつかでも○を付けてください。(複数回答可) 《資料例5・6ページ》

- 01.必要だと思う 02.心の支えになる 03.不要だ 04.優先順位が違う  
05.その他 ( )

C02 私たちは、ふるさとのつながりを考えるうえで「方言」は大変重要なものだと考えています。方言を保存しようという取り組みについては、どう思いますか？「そうだ」と思うものいくつかでも○を付けてください。(複数回答可)

- 01.必要だと思う 02.心の支えになる 03.不要だ 04.優先順位が違う  
05.その他 ( )

C03 今回の災害で皆さんのご出身地の方言が失われることがないように、国の機関である文化庁は保存・継承への取り組みを支援したいと考えています。こうした取り組みについては、どう思いますか？「そうだ」と思うものいくつかでも○を付けてください。(複数回答可)

- 01.必要だと思う 02.心の支えになる 03.不要だ 04.優先順位が違う  
05.その他 ( )

C04 あなたはふるさと(ご出身地)の方言はお好きですか？

- 01.好き 02.嫌い 03.どちらともいえない

C05 あなたはふるさと(ご出身地)の方言に愛着を感じますか？

- 01.愛着を感じる 02.愛着はない 03.どちらともいえない

C06 ご自分のお子さんやお孫さんなどの若い世代に、ふるさと(ご出身地)の方言を受け継いでいってほしいと思いますか？また、若い世代の皆さんは、ふるさとの方言を受け継ぎたいと思いますか？

- 01.思う 02.思わない 03.どちらともいえない

C07 (上のC06で「02.思わない」とお答えになった方にかがいます) お子さんやお孫さんに、ふるさとの方言を受け継いでほしくないと思う、あるいは若い世代の方が方言を受け継ぎたいと思わないのは、なぜですか？「そうだ」と思うものいくつかでも○を付けてください。(複数回答可)

- 01.方言が嫌いだから 02.都会に出たら困ると思うから 03.出身地が知られないようにしたい  
04.その他 ( )

\* \* \* \* \*

D 県外に避難されている暮らしの中で、ふるさと（ご出身地）の方言を聞いたり話したりすることについて、どのように思われますか？お感じになることについて、お教えてください。

（例）ほっとして心がなごむ。 / やっぱりふるさとの方言はいいなあと思う。 /  
同郷の人と話すと、がんばろうという気持ちがわいてくる。 /等

E ふるさと（ご出身地）の方言の興味深いことば、方言ならではの表現、方言にまつわる出来事などがありましたら教えてください。また、この調査について、何かお気づきのことやご意見がありましたら教えてください。

調査へのご協力、ありがとうございました。

ご回答いただきましたこの調査票だけを同封の返送用封筒に入れ、平成 25 年 1 月 10 日頃までに、ご投函ください。なお、ご回答・ご投函いただくのが 1 月 10 日以降になった場合でも、後日、役立てさせていただきますので、ご返送くださいますようお願い申し上げます。

茨城大学人文学部 杉本妙子





A. 普段の支援活動の内容と、その時のコミュニケーション状況

A01.これまでの支援活動中、被災・避難された方と会話をする機会がありましたか。

- 01.あった 02.なかった

A02. (上の A01.で「01.あった」という方にうかがいます。) どのような状況で会話をされましたか。

- 01.方言の通訳や説明をしてくれる人がいた 02.被災・避難された方と直接会話し(方言の通訳なし)

A03.会話を交わしたのはどちらの方でしたか (あてはまるものいくつかでも)。

- 01.北茨城市 02.高萩市 03.日立市 04.東海村 05.ひたちなか市 06.大洗町 07.鉾田市  
08.鹿嶋市 09.神栖市 10.水戸市 11.その他の茨城県内 (市・町・村)  
21.福島県 22.宮城県 23.岩手県 24.青森県 99.その他 (県)

A04.会話を交わしたのは何歳ぐらいの方でしたか (あてはまるものいくつかでも)。

- 01.高年層 (おおよそ 60 歳代以上) 02.中年層 (おおよそ 40~50 歳代)  
03.若年層 (おおよそ 20~30 歳代) 04.高校生 05.中学生 06.小学生  
07.小学生未満の子ども

\* \* \* \* \*

B 方言の問題 (被災者の方との会話、被災地域の方言、支援活動と方言)

\* 支援活動を行った地域(相手)はどちら(出身)ですか。 [ 茨城県 茨城県外→( 県) ]

\* 以下では、支援活動地域(相手)の方言についてうかがいます。

B01.支援活動などでの会話の中で、相手の方の方言が分からなくて困ったり、戸惑ったりしたことはありませんか。

- 01.あった 02.なかった

B01-2. (上の B01.で「01.あった」という方にうかがいます。) それはなんということばでしたか。覚えているものがあれば教えてください。

B01-3.相手の方の方言が分からなかった時、どのように対処しましたか。

- 01.相手の方に聞き返した 02.他の人に教えてもらった(通訳してもらった)  
03.分からないまま会話を続けた 04.会話をやめた  
05.その他( )

【「茨城県または支援を行った地域」以外の出身の方にはうかがいます。】

B02.「茨城県／支援を行った地域」の方言には目立った特徴があると感じますか。

- (A) 01.感じる 02.感じない 03.分からない 04.その他( )

(B) どのような特徴があると思いますか。

B03.方言以外の話し方で、自分の地元の人と「茨城県／支援を行った地域」の人とは、何か違いを感じる  
ことがありますか。

- (A) 01.感じる 02.感じない 03.分からない 04.その他( )

(B) どのような特徴があると思いますか。

B04.「茨城県／支援を行った地域」の方言は難しいことばだと思いませんか。

- 01.難しい 02.難しくない 03.どちらともいえない

B05.被災地の方には、できるだけ共通語で話しかけてもらいたいですか。

- 01.共通語で話しかけてほしい 02.方言でもかまわない 03.どちらともいえない

99.その他( )

\* \* \* \* \*

C 方言の問題と今後の活動

C01. これからも被災地の支援活動を続けていく予定ですか。

01. 続ける予定だ    02. 続ける予定はない    03. 分からない

C02. (上の C01. で「01. 続ける予定だ」と答えた方にうかがいます。) 今後支援活動を続けるにあたって、ある程度は被災地の方言を学ぶべき (学んだほうがよい) と思いますか。

01. 学ぶべきだ (学んだほうがよい)    02. 学ぶ必要はない    03. 分からない

C03. 今後、東日本大震災のような災害が起きた場合、また支援活動に取り組みたいと思いますか。

01. 取り組みたい    02. 取り組むつもりはない    03. 分からない

C04. 今後、新たな支援活動に取り組む際には、ある程度は被災地の方言を学ぶべき (学んだほうがよい) と思いますか。

01. 学ぶべきだ (学んだほうがよい)    02. 学ぶ必要はない    03. 分からない

C05. 津波被害や原発避難のために、地域コミュニティが消滅し、その地域の方言も同時に消えてしまうのではないかと懸念があります。こうした被災地の方言を保護し、継承していくべきだという意見をどう思いますか。

01. 保護・継承すべきだ    02. 保護・継承しなくてもよい    03. どちらともいえない

\* \* \* \* \*

D 方言に関するこれまでの取り組みについて    《資料編の例をご参照ください》

D01. 東日本大震災の被災地へ支援に来た医療関係者などのために、被災地の方言を簡単に説明したパンフレット等がいくつか作られています。被災地の支援活動を行う上で、こうしたパンフレットは必要なものだと思いますか。    《資料例》

01. 必要だ    02. 必要ではない    03. どちらともいえない

D02. あなた自身の支援活動にとっては、こうした方言のパンフレットは必要でしたか。

01. 必要だった    02. 必要ではなかった    03. どちらともいえない

D03.今後、被災地において、被災地の方言についての情報を提供する「方言ネット」は必要だと思いますか。

- 01.必要だ 02.必要ではない 03.どちらともいえない

D04.今後、他地域においても方言についての情報を提供する「方言ネット」は必要だと思いますか。

- 01.必要だ 02.必要ではない 03.どちらともいえない

D05.被災地の方言による方言エールやスローガンは、被災地の方の力になると思いますか。

- 01.なると思う 02.ならないと思う 03.どちらともいえない

D06.「がんばろう東北」のような共通語による方言エールやスローガンについては、被災地の方の力になると思いますか。 《資料例》

- 01.なると思う 02.ならないと思う 03.どちらともいえない

D07.「がんばってや東北」「ちばりよー福島」のような他地域の方言エールやスローガンについては、被災地の方の力になると思いますか。 《資料例》

- 01.なると思う 02.ならないと思う 03.どちらともいえない

\* \* \* \* \*

E 文化としての方言保存・継承，方言への評価 《資料編の例をご参照ください》

E01.震災後、被災地の文化を保護したり、被災地域のお祭りを復興させたりという取り組みも盛んです。被災地の文化の保護は重要だと思いますか。 《資料例》

- 01.重要だと思う 02.重要だと思わない 03.どちらともいえない

E02.それでは、被災地の文化としての方言についてはどう思いますか。

- 01.重要だと思う 02.重要だと思わない 03.どちらともいえない

E03.被災地の方言を保護し、継承していくことについてはどう思いますか。

- 01.保護・継承したほうがいい 02.保護・継承しなくてもいい 03.どちらともいえない

E04.あなたは被災地や支援を行った地域の方言が好きですか。

- 01.好き 02.嫌い 03.どちらともいえない

E05. (茨城県出身の方にかがいます。) あなたは茨城県の方言が好きですか。

- 01.好き 02.嫌い 03.どちらともいえない

E06. (茨城県以外の出身の方にかがいます。) あなたは自分の地元の方言が好きですか。

- 01.好き 02.嫌い 03.どちらともいえない

\* \* \* \* \*

F 方言にまつわるエピソードなどがあったら教えてください。また、この調査について、何かお気づきのことやご意見がありましたら、お教えてください。

調査へのご協力、ありがとうございました。  
茨城大学人文学部 杉本妙子

